

週寫眞  
報

情 報 局 編 輯

十一月廿五日 第二千四百八十八號



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

片手で遊撃隊をうち拂ひ

片手で建設の槌を執り

同胞幾萬が

今日も戦つてゐる

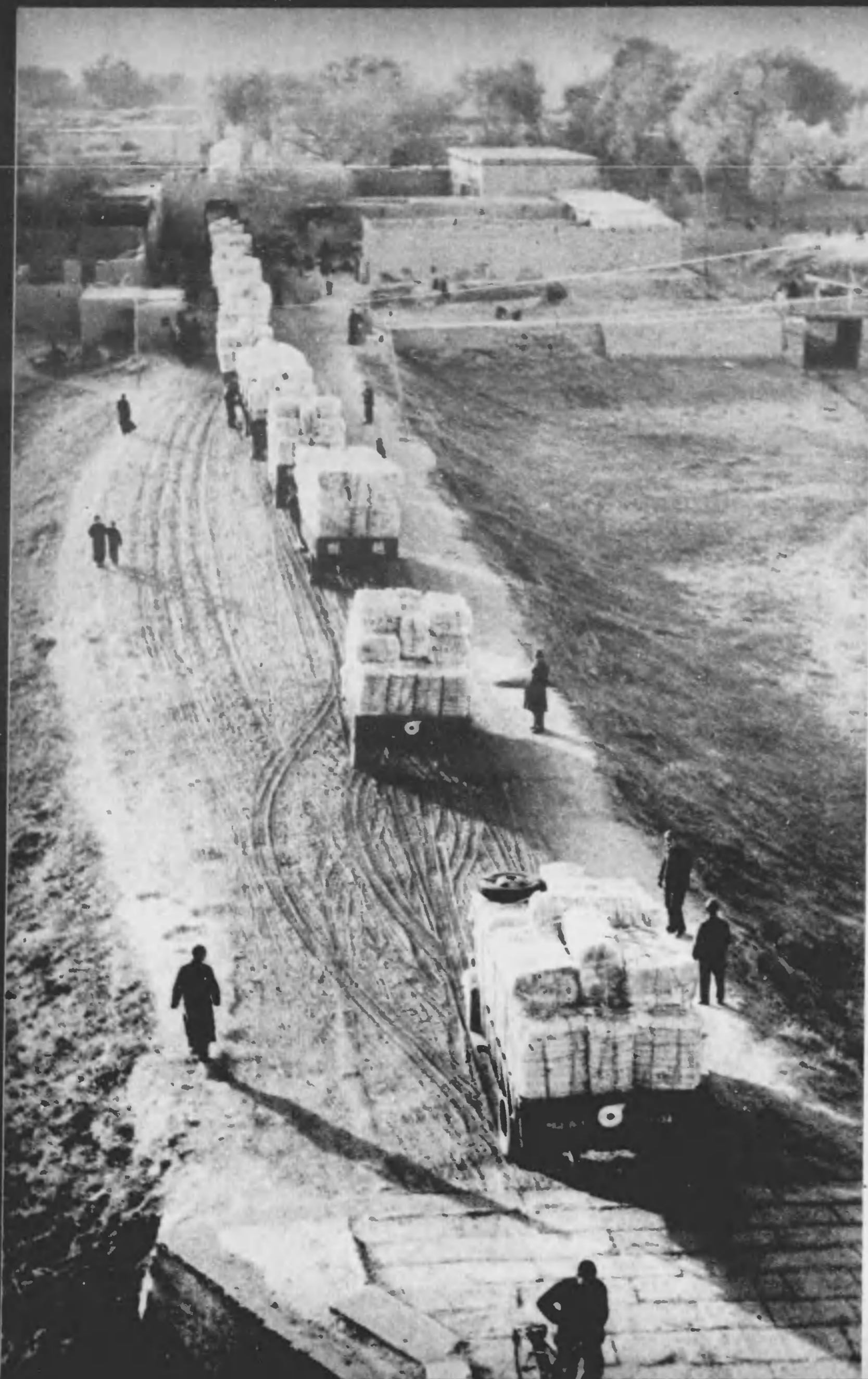
大東亞戦も支那大陸から始つたのだ

忘れてはならない

# 大陸建設も遅く

撮影 華北交通株式会社

雪の道に車の跡も遅く、雪作の  
雑花を積んだ車は遅く、





北支通商株式會社

# 増産へ

水害の難を蒙つて非常に減産した。だが北支通商株式會社の治下、この棉花減産はそのまゝに放つて置かれはしなかつた。この政策としては棉花價格の調整や棉農の改善、華北交通株式會社の鐵路愛護村運動による沿線住民の灌漑用井戸の増強等の積極的な増産政策が樹てられた。治安の回復とともに、この政策に従つて益々と勵んだ北支農民の努力は報いられて、昨年の棉花生産高は事變前の水準に近い成績をあげた。さらに現在の北支棉花栽培状態を推し進めてゆけば、昭和二十五年にはこれまでのわが國棉花の全消費量を越える生産高に達する見込みであるといふことは、堅實として頼もしい限りである。

今年によく獲れたなあ！こちらの部落や、あちらの部落から棉を賣りに来た農民は市場に屯して喜びを分かち合ふ

集貨場に山と積まれた棉花！大團の原料となり、また濃い純綿衣類となる

# 北支棉花は躍進的

## 大陸建設

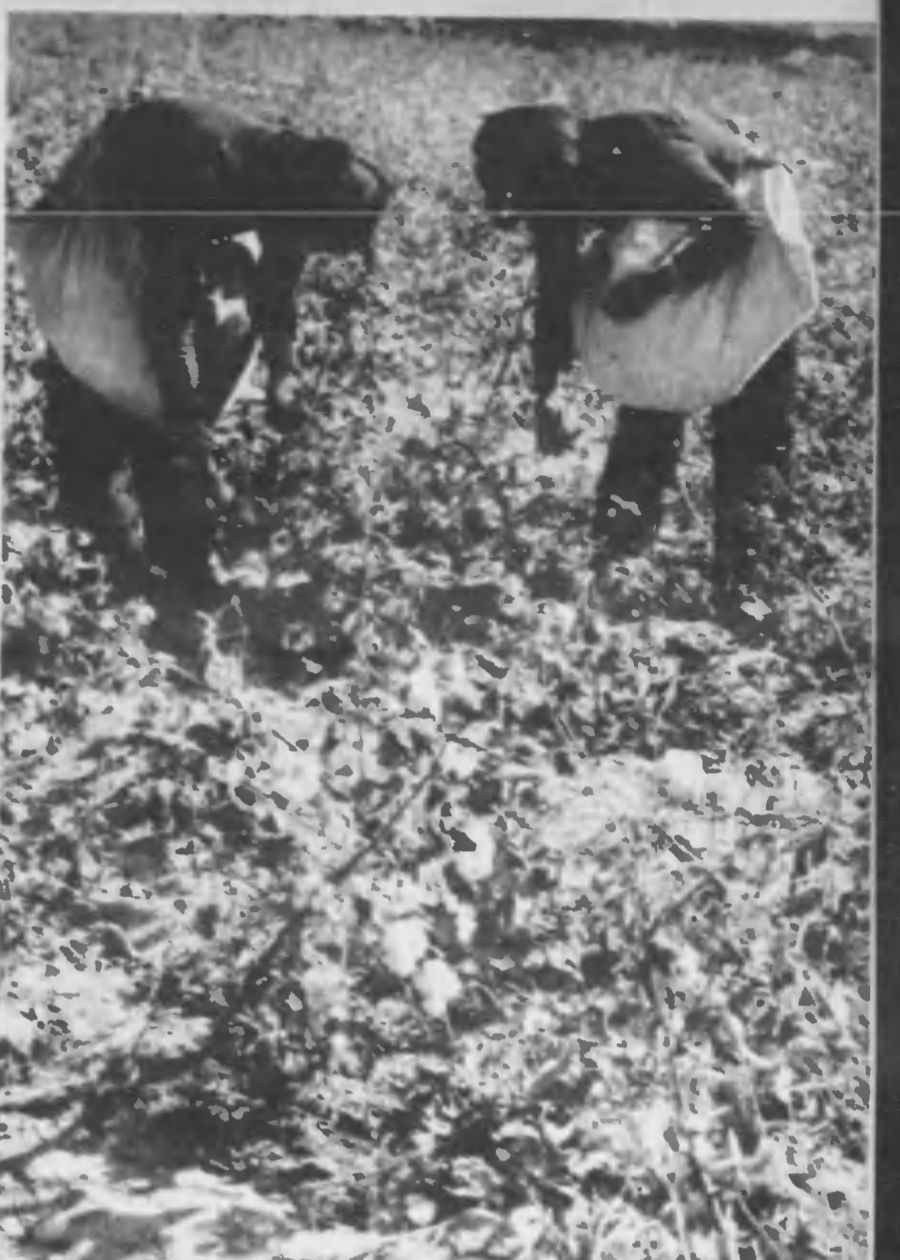
ますます



南に懸たる戦果が響がるなかに、新支那の經濟建設は着々と堅實な歩みを續けてゐる。この活潑な經濟建設の鼓動を北支に窺つてみよう

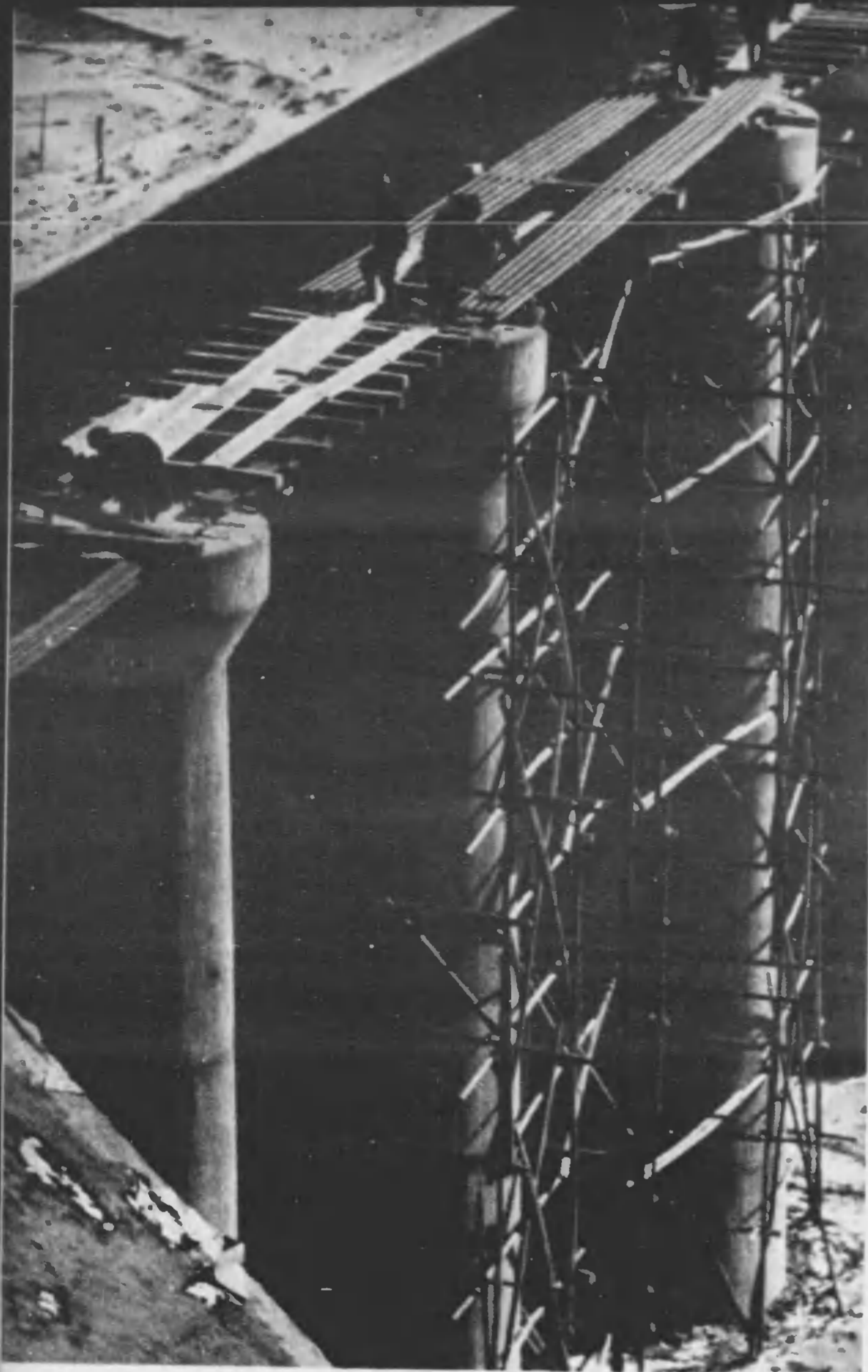
北支の農産資源のうちで最も重要なものは棉であらう。生産高からいつても支那棉は米國、インドに次いで世界第三位にある。しかし、事變前中支の棉とともに山西、河北、山東と北支三省で世界第三位の生産を占めてゐた北支棉花は、その後戦禍や旱

十月ともなれば棉の取入れが始まる  
 豊作だ！  
 ...と、かたがた棉の觸感に結城は色気満面



有難いことだ、こんなに澤山獲れて...老人の顔には明朗北支の姿が寫つてゐる





山の切崩しもどんどんと進む

## 9の雪を衝いて

石炭である。従つて北支に於ける鐵道と炭礦の開發は不可分の關係にある。主なものを擧げてみても京包線の大回石太線の井陘、京漢線の磁縣、津浦線の大汶口、中興、同蒲線の西山、隴海線の柳泉など十指に餘るものがある。そしてまたほ夜に日を次いで建設を急いでゐるものにも同線がある。同線は大回と塘沽新港とを結ぶもので、この線が開通した際には大同石炭の輸送に一新紀元を劃するものとして完成の一日も早いことが期待されてゐる。

## 鐵路は山西

大陸建設も遅く

北支鐵道の復興は軍の作戦と平行して占據地域の安定とともに完成し、新線の建設は戦火の餘燼消えやらぬうちから起工され、いまや北支、蒙疆の鐵道は延長約六千キロに及び全支鐵道の延長一万余の六割を占めるに至つた。現下、北支における産業、特にわが國を對象としての産業活動の中心は工業資源の活用である。工業資源といへば石炭、鐵、棉花、鹽など擧げられるが、何んといつても北支資源の大宗は



山西の野は一面雪に覆はれた。この吹雪と闘つてわが鐵道建設の潮氣は練けられる。警備員は生命を賭して險路を渡る。

寒い野天ではあるが、轉機手は笑つて白旗を振る。新工事の架橋も、わが世界に誇る鐵道技術で押しまくる。

# 治安に自衛団必死の協力



非営業者に集る農民の農民



三河縣農民で組織された自衛團、前列は紅帽隊



警備道路に並んで送られる車馬道路 三河縣



捕へられた八路軍工作員を訊問する自衛備隊



## 前線假寝の宣撫行

北支派遣 原田、小島助

盛夏の酷暑、熱砂、黄塵の野に轉戦して赤魔の地、蔣軍の真只中に躍り込み、或いは銃なき聲の戦士となり、或いは筆執る戦士として愚かな民衆を説き、東亞再建に實夜の別なく精進する報道宣撫の活動は、極めて地味ながら人知れぬ苦勞がある。

常報道班も三浦班長を圍んで、これが報道に、宣撫に、寒日がない。去る五月、勇躍山西〇〇より冀中地區に轉進し、共産滯床地帯に侵入して彷彿する民衆を宣撫し、華北再建を熱叫してゐる。その一つ二つ……

去る五月二十三日第六分區の敵四千を文字通り撲滅させたから、冀中軍區の遊動區團は完全に河北中部の平原から姿を消した。だが根強いのは愚かな民衆を騙りたてて築き上げたアミーバーの地下組織である。これを根絶しなければ匪民は永く隔絶され得ない。匪民を分離して、百姓を再教育しなければ復興は望めない。こゝに匪區掃蕩直後の並々な苦勞がある。

村々の壁に書かれた抗戰の文字を消し、或いは和平建國のポスターを貼り、繪を置き、宣傳文を大書してゆくのを手始めに、敵の空室清野の奸策に強ひられた部落を棄て、田野に彷徨する哀れな民衆を呼び集めて皇軍出師の眞義を説き、八路の奸悪を暴き、大東亞戦争の眞相を説き聞かせる。それには矢張り音楽等の鳴りもの入りで紙芝居もあれば、掛合漫才もやらねば民衆は喜んで集つて来ない。故に日華報道班員はいづれも一致協力して、日夜奮むことを知らぬ宣撫行を繰返してゐる。また時には前線

假寝の宿邊に民衆幹部を集め、或いは黨員等の座談會を催すこともある。今次冀中軍區掃蕩作戦においても、工作宣撫の片時を利用して、殺伐な軍國氣を淨化する座談會が三浦班長を圍んで催された。その演説を學べれば華人報道隊長韓耀斗(山西臨汾、明治大學卒)も民政部司法院第二課長)を初め紙芝居、講演、傳單貼付など民衆の宣撫に大膽な宣傳部長申靜波(河南南陽、河南大學卒)も中央第三軍團副少佐團長)演劇班長陳清華(河南南陽)も九八軍中尉小隊長工作班長楊松林(山西平遙)も上決死第一縱隊付少尉工作員李其美(山西絳縣)も山西保安隊第五區隊司令部幹部)および女工作員の趙鏡(山西五臺)も決死第一總隊(護衛隊長)王藝雲(河北宛平)も六九軍女工作隊員陳惠軒(河北定縣)も小學校教員)等の華人班員である。三浦班長は常にわが子の如く熱意と愛撫の面持で班員を勵めながら、次ぎのやうに語つた。

大體、中原會戰、沁源作戦の結果、初めてわが方に協力することゝなつたこれらの班員は、現在こんなまでよく大東亞建設の理想に燃え、班長の下、鐵石の團結を堅持し、着々と偉大な業績を挙げた。こゝとは喜びに堪へない……と感涙の詞を述べた。

韓隊長——團長を捕へたからといって大した功績のやうにはおぼかしい次第です。私は今まで山西の或る縣長をして捕へましたが、三浦班長以下の共作隊員から、心の人として自身も及ばぬ取扱をされて来たし

今なほ米英の野望を悟らず、大東亞共榮のために戦ふわが眞意を解せず、徒らに米英の走狗となり果て、わが建設戦を妨げる重慶の狂亂よりは同じ東亞の民族としてみるとき情れといふ外はないが、あくまでも支那大陸に新秩序を打ち樹て、建設戦を戦ひ抜かねばならない我々にとっては彼等との戦ひは眞實な勝負である。大陸にあるわが將兵はあらゆる困苦を忍びつゝ繰り返し繰り返し敵の逆襲戰術に飽き加へてゐるが、既に國民政府の治下和平建國の旗に打ち響く幾多民衆はそれぞれ村に町に自衛團を組織して敵のゲリラ戰に備へ、わが警備隊に懸命の協力をつづけてゐる。

### 大陸建設を速しく

撮影 北支軍報道部

夫はまだ共匪に連廻されて山の中を彷徨してゐることぞせう。芝居をやる時でも、歌を唄ふ時でも、私は共匪への呪詛で胸の中は煮えくり返つてゐます。河北の農民だつて同じ中国人です。何とかして一日も早く私達の努力で、彼等を共匪の偽善と壓制から解放してやらねばなりません。

陳班長——冀中は共産軍の教育が相當深く民衆に喰ひ入つてゐるから、河南や山西よりは遙かにやりにくい。それ故に我々の宣傳もやり甲斐があるといふものです。確かな認識を得てどしどしこちらの民衆に宣傳してやらねばなりません……と陳中炎の夜、庭に見る團長は班員の語りひによつて明日への希望と理想とを深めて行くのであつた……





組合員の家庭にも、組合の役員が訪問して、供出に協力してくれるよう、いろいろと説明する。

↑ 供出米の準備には、各村の女子青年団が活動して準備した。

→ 自家保有米供出班の準備をすすめて、米の音

**★戦力をぐんと強化しよう**

一 先づ貯蓄だ！戦力の強化には何をあいても先づ貯蓄だ

昨年はその感涙の日から月末までに『三十億貯蓄』をやりとげて、見事に目標額の百七十億に達しましたが、本年上半期の貯蓄額は百九億で目標の半額に達していません。この不振を一擧に挽回して、本年の目標額二百三十億にぜひ達せねばなりません。そのために次ぎのことを必ず実行いたしませう

(イ) 大東亞戦争一周年記念貯蓄として十二月中だけで『五十億貯蓄』を達成しよう

(ロ) 國民貯蓄組合へは全國民必ず加入しよう

(ハ) 官費や農家の臨時収入はできる限り貯蓄や公債消化にふり向けよう

(ニ) 生活を最小限度に切りつめ、贈答や遊興をやめて、それだけ貯蓄を増加する工夫をしよう

二 増産に懸命の努力を傾けよう

米英は老大なその資源と生産力をたのんで、對日反撃の時期を留めてゐます。今日の戦争が武力戦であると同時に生産戦争であることはいふまでもないことです。より多くの武器を、より多くの食糧を、それが必勝の基礎となるのです。國防資材、造船に關係する工場、鋸山その他各種の事業場に働く方々や、食糧増産に働く方々は一人一々が數百の敵に當る戦闘力をもつて、敵の生産力を崩伏しようではありませんか

# 米を強めてつす

出供米有保家自に期境端

## 縣取鳥

今年は大候にも恵まれ、且つ農家一人々の一筆削りによつて、近年まれに見る豊作でした。しかし例年通り端境期には、どうしてもお米の出廻りが悪くなります。この困窮な時期を乗り切らねば、自家保有米まで供出して、政府の米穀對策に協力した農家は、西郷村大寺農事組合の美しい姿をお傳へいたします

同農事組合では、縣から端境期の政府供出米の割増がくると、一粒でも多くといふ意氣込みから、組合員がそれぞれ、具體策を講じて、ついに自家保有米まで供出するに至つた



農事組合の役員を呼んで、何とかして自家保有米を供出しようとする協力的な協議

農家にとつて自家保有米の尊さは想像以上です。これに手をつける苦痛を押し切つて供出した同組合の農家は、さらばる惡條件を克服して本年の豊作を獲得した農民魂に一粒の光彩を添へるものでせう

二十三日の新嘗祭を中心に、一粒の米にも心から「勿論ない」の感謝を捧げる新穀感謝運動が行われますが、わたしたちが喜びをもつて食糧に迎へる新米には、贈へやうのない農家の勞苦と、かうしたつきつめた協力のこともつてゐることを想ひ、深謝の行儀を講じたいと思ひます

撮影 石巻長二郎

# 十二月の常會

大東亞戦争一周年を迎へる事になりました。今なほ胸に燃えたるあの日の感涙と決意を新たに、この常會では戦争生活實踐の徹底を決議し、いよく米英軍の陣地を固めることにいたしました

## ★十二月八日は

- 『帝國陸海軍は本日未明……』あの大本營發表のラジオ放送をもう一度、耳菜によび起し
- (一) 早朝から各戸一齊に國旗を掲げませう
  - (二) 午前十一時五十九分から正午まで全國民一齊に國威の隆昌、皇軍勇士の武運長久、並に感謝の祈念を捧げませう
  - (三) 正午からラジオで大詔奉讀が行はれますから、黙禮ことに集つて謹んで拜聴いたしませう
  - (四) 各神社で祈願祭が行はれますから、町内會、部落會、隣組等の代表者はこれに参列し、一般の方もできるだけ神社に参拜して、感謝の祈願をいたしませう



# 老とくは之見は眼

増産戦士に按摩のさの奉仕園——岡山県

「われ／＼とまたとへ眼は見えなくともお國につくす心において決して目明きの人達に負けない」と岡山縣下の按摩さん達は打つて一丸となり、主として縣下の無醫村や、農業者の困窮を助けてあげて、この企ては昨年同郷大友會支部の庶務部長だった杉山さんの肝煎りから實行に移されたもので、以來、無醫村などにおける奉仕園の人気が大したものでした。

按摩さんの奉仕園は、奉仕園の吉田村に開設され、金持や裕福な産業者や、村内の老人たちにマッサージを施した上、村民に「この非常時下、お國を思へば私たちが盲人でさへも立つとしてをれず、かうして出馬しました。どうか其眼の皆さんにおかれては一層の奉仕をお願ひします」と天晴れの挨拶を行つて村上の喝采を浴びました。



奉仕園の場で行つた奉仕ぶり



「具眼の士よ……」と村民に挨拶する理事長さん

撮影 吉田 榮

## 二 固めよ空の誇り

國土防衛は私どもに與へられた偉い任務です。これまでともいふかりはない苦ですが、去る日の米機は非道な空襲ぶりをはつきりと頭に刻みつけて、烈々たる敵機心を燃やして常に防空陣を固め、防空資材の準備、警戒を怠らず、すはといふ時、不覺をとらぬやうに心掛けませう。また附近の防空監視隊の慰問活動等を行つてその勞苦に感謝させよう。

## ★ 戦争生活の實踐に協力しよう

### 一 配給消費の適正化に協力しよう

國內も戦場です。お互は戦友です。にも拘らずこれまで配給消費の方面では、未だ自分本位の態度を捨てきれない人も少くありませんでした。これは戦時生活の秩序を亂す意味で、敵性行為だといひきつてもいいでせう。

今度、全國の都市の町内會には實情に応じて消費經濟部が設けられて、その下に小賣業者と消費者とが配給について互に相談し合ふ配給協議會が設けられ、この問題をすらくと運べるやうにしていくことになりました。消費者たるわれわれも町内會や隣組を通じて進んでこれに協力し、次ぎの事柄を實行して戦争生活の士氣を固めていませう。

- (イ) 賣る方も買ふ方も、互に戦友愛で結び合ひ、明らかな配給秩序を守つて、闇取引や不正の情實販賣、買渡り等の不徳な行爲を絶対に無くさせよう。
- (ロ) 切符制や登録制の配給がすらすら行くやうに工夫させよう。
- (ハ) 隣組の共同買出しで輪番制等を定め、各自の努力と協力で買物行列を解消させよう。
- (ニ) 家庭生活をよく検討してみませう。まだ無駄があります。お互に注意し合ひ、工夫を話し合つて戦時下にふさはしい消費生活の合理化をはかりませう。

### 二 出征軍人遺族家族に絶えざる援護を

われ／＼の町内會、部落會、隣組をごらん下さい。きつと二人や三人の出征されてゐる兵隊がをられることせう。この方々に絶えず慰問文や慰問袋を送り遺族、家族の慰問や手傳ひもいたさせよう。出征軍人の慰問はもとより、英雄の出迎へ、墓碑清拭、墓参等も缺かさぬやうに勉め、傷痍軍人をいたはりませう。

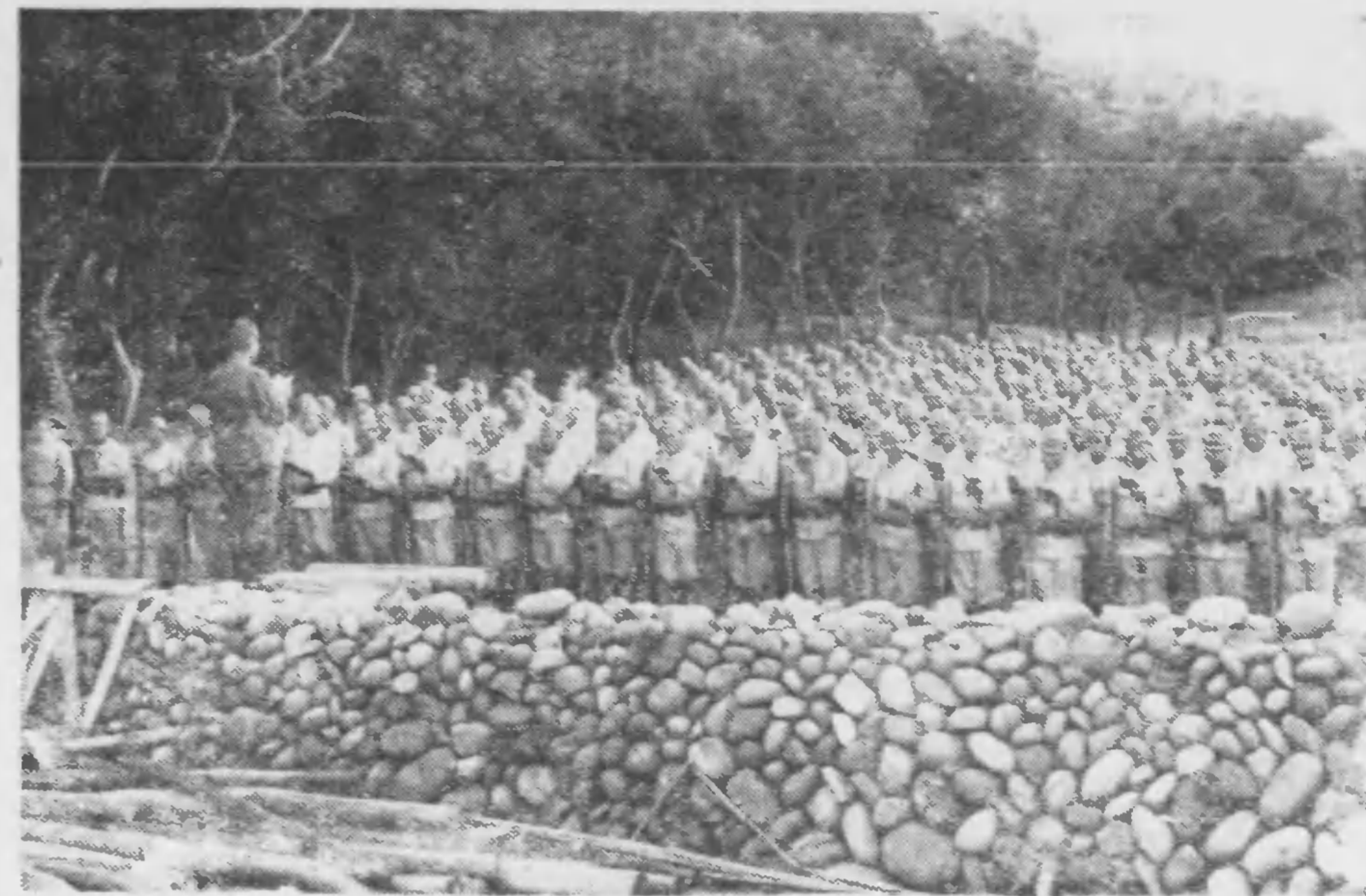
### 三 戦時下の輸送力強化にも協力させよう

戦時重要資材や、生活必需物資の輸送は最も大事なこと、少しでも多く、少しも停滯しないやうに必要な方面に運ばねばなりません。この輸送に當る重要な機關である汽車の輸送を強化するため、この際、遊樂や急がぬ旅行は絶対によめ、託送荷物を極力自給して、少しでも多くの輸送力を重要物資の輸送に廻すやうにさせよう。鐵道省では先頃から運轉時間の改正や乗車制限など、全面的な輸送力の強化をはかつてをります。これらについても十分の理解をもつて出来ただけ協力するやうにさせよう。

× 今月は本年最後の常會です。お互に一年間の常會を顧みて、改めるべき點は速かに改めるやうにいたさせよう。

# 臺灣の 志願兵訓練所

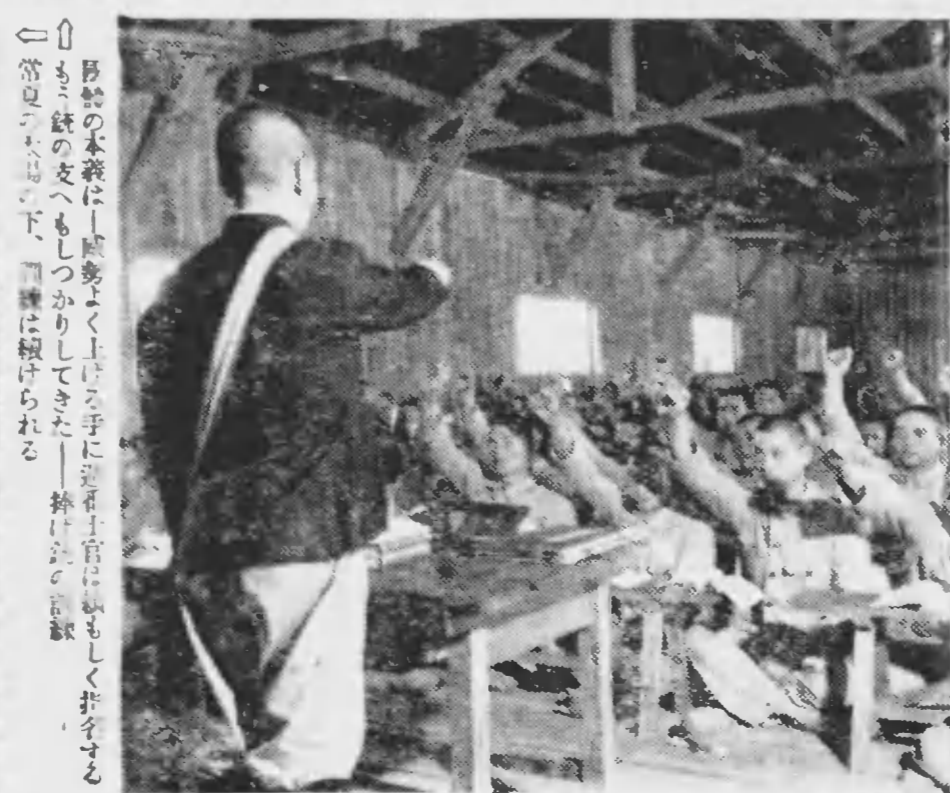
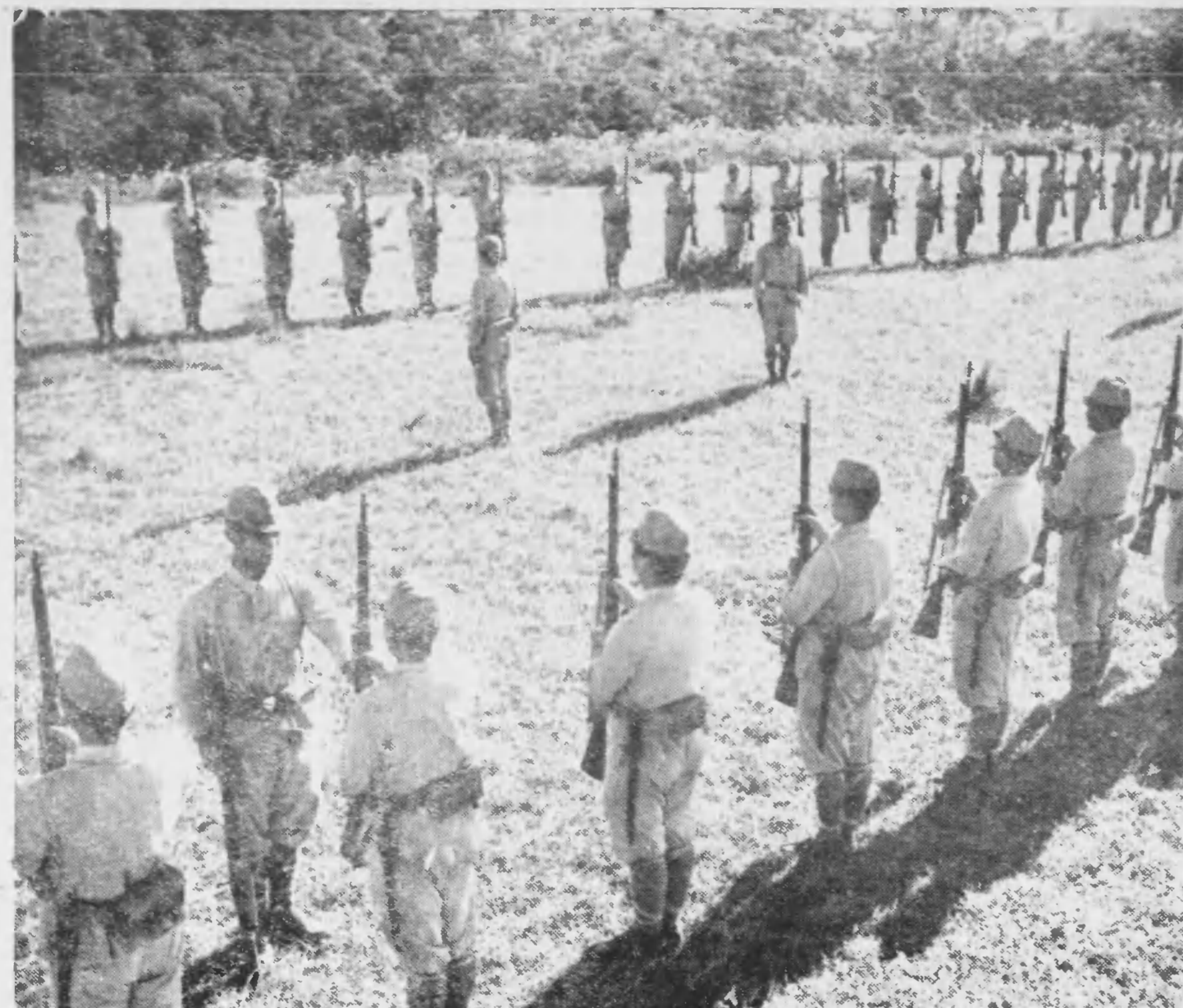
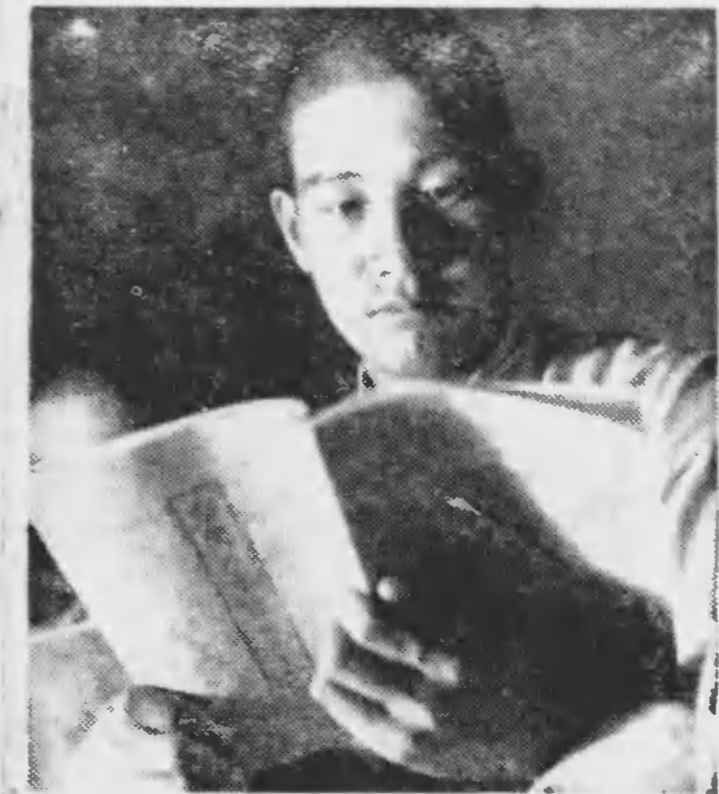
朝鮮同胞の中から選りよれた特別志願兵は、人助を習得し、



元一札カ一ノ體格と精力を練る志願兵  
兵隊の上級とは一書物に食ひ入る志願兵の限は無い

明治五年、徴兵の詔を拜して徴兵令が施行せられ、國民皆兵といふ古の制度に復してから今年で丁度七十年を遂げた。この間西遷の事變や臺灣征討などをはじめ、日露、日露の兩役、滿洲、支那兩事變に遭遇しながら常に國民が舉國一致して兵役制度の眞價を發揮し、國國の大任に當つてきたお蔭で、わが國運の前途は實に洋々と拓けてきた。いままた大東亞戰爭を戦ひ、越々の戦果があるに、わが國高なる兵役制度が極めて大きい力をいだし、戦局に光明を與へてゐることは何人も疑ひを容れないところであらう。

その間にまた、朝鮮下には、徴兵制施行七十年の意義ある年において、朝鮮同胞に對して徴兵制(昭和十九年)を施行することが閣議で決定され、臺灣同胞に對しては特別志願兵制度が設けられ、これら同胞に國國の大任を擔ふ榮譽を與へたことはわが徴兵制度の一大發展として特筆されるべきことである。



兵隊の本義は「國をよく上げる手に」若し上官は、兵もしく井をよも、兵の支へもしつかりしてきた一兵士の義務、常服の下、訓練は続けられる



# 結が教宗 マルビぶ

東道派マルビ  
作京山西 樹中軍陸

えなくなるよと、神妙な顔をして  
貴族から出て来た。ひどく驚いた  
やうな顔付がいかにもおかしな  
たので、周囲の兵隊をすつかり笑  
はせた。乾季のため半分ぐらゐる美  
しく紅葉した道、道路は終ふや  
うに曲つてつづいてゐる。  
均整の大地は照りつけて、眩い  
ばかりであるが、一歩、大空に入  
れば、涼風が汗ばんだ肌を浸みて  
日本の秋晴れを思はせるものがある。  
まほだ高麗になつて来たため  
であらう。

ビビッ、ビビッ、ビビッ、と音を  
響くやうな薄気味悪い機銃掃射は  
不意に頭上約百メートルに現はれ  
た敵機の大群と共に耳を聳たす  
いた。大きな音響をしたものが敵  
機がぶさつて来る感じを受けたが  
ら、アアといふ間に周囲には掃射  
弾がブス／＼と音を引くやうに流  
れて行つた。ラジオを出発してビ  
ルマートを種支國境に向つて疾  
走してゐた自動車も、情力を利用  
して道路を左に木立の草叢に這入  
つて急停止したのと同様である。  
敵機は山陰に避難しつゝ低空飛行  
で近づいて来たらしく、爆音も機  
影も全く射撃を受ける直前まで認  
めることは出来なかつたのであ  
る。敵ながら勇敢にもたゞ一機で  
自動車隊列の中央附近を爆撃し  
て飛び去つた。

故國とほく  
——〇〇部隊の集ひ——  
看護婦 蔵田つま子  
激戦の跡とも見えず海面の面は夕陽の影をうつして  
いたつきの風きにあれどこの兵を遣かしてすまじ神よ護らせ  
感涙に胸をせまきけり新領土マレーの子等が歌ふ君が代  
草履一基スコールに濡れてあり道の邊に誰か捧げし紅きカンナヤ  
故國への贈物安かおと願ふなり御行く兵の病衣の白さ  
看護婦 池田 桃枝  
船出をば共にいたせし將兵と別れ惜しむつ機振りに振る  
船中に臥して敵におにきりにみとりし兵を思ひ出せり  
看護婦 金清さつ子

といへども、最早や、いづれのビ  
ルマ人も日本をよりよく知つた  
一人となり、自軍の有力なる宣  
傳の員となつて、ビルマ民衆に向  
つて叫んだのだ。自軍が進軍し  
たばかり、未だ掃射消えやらぬ街  
昨日奪取したばかりの村、そして  
第一線部隊と共に入城した市にお  
いて、大衆の面前に黄衣姿の彼の  
烈々たる訓では、時には千餘に亘る  
民衆を沈黙せしめ、烈々たる氣魄  
を以て「日本軍の真意」を説き、「ビ  
ルマ作戦の意義」を説き、そして  
「アジアに對する英米の策謀」を論  
じ、眞にビルマ人の歩むべき道  
を説き拓いたのであつた。

宗教的に結ぶ日本とビルマは大  
乘的、小乘的の小異はあつたけれ  
ど、佛教そのものに對する信仰心  
は何等かはるところはなかつた。そ  
こに熱血奮闘するビルマ人の熱  
が民衆を奮起せしめた原因があ  
つた。背景に強力日本あり、叫



## 壯絶南太平洋海戦

十月二十三日サンフランシスコ東方で行はれた南太平洋海戦に  
おける敵機隊の一機——向つて右は機銃火を吐くが真向、中央は  
空襲した後機隊の光で、左はわが中隊を浴びて退却する敵機一機  
を捉へながら右に退却をせむ。

### 大東亞戦争日誌

十一月  
一、帝國海軍部隊は六月下旬に敵艦  
三十四隻、二十五万二千四百ト  
ンを撃沈、この間我が方潜水艦二  
隻を失ふ。  
二、帝國海軍部隊は右期間に敵艦  
三十四隻、二十五万二千四百ト  
ンを撃沈、この間我が方潜水艦二  
隻を失ふ。  
三、帝國海軍部隊は六月下旬に敵艦  
三十四隻、二十五万二千四百ト  
ンを撃沈、この間我が方潜水艦二  
隻を失ふ。  
四、帝國海軍部隊は六月下旬に敵艦  
三十四隻、二十五万二千四百ト  
ンを撃沈、この間我が方潜水艦二  
隻を失ふ。

日	月	火	水	木	金	土
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

### 十二月

- 一日 〇七回弾丸切手賣出
- 二日 〇七日まで大東亞戦争  
一周年記念戦車  
活立運動
- 三日 〇十一月まで同軍人遺  
蹟運動
- 四日 〇第六回戦時救護費  
同戦時救護費賣出  
運動
- 五日 〇大東亞戦争一周年  
記念日、各戸救護を  
掲出し、大東亞戦争  
一周年記念戦車、  
救護費、救護費など  
各種の記念行事が全  
國に展開される。
- 六日 〇十一月まで大東亞戦争  
一周年記念戦力  
（國民野營、増強防  
空等）強化運動
- 七日 〇皇太子殿下第九回目  
の御誕辰を迎へさせ  
らる。
- 八日 〇大正天皇祭
- 九日 〇大正天皇祭
- 十日 〇大正天皇祭
- 十一日 〇大正天皇祭
- 十二日 〇大正天皇祭
- 十三日 〇大正天皇祭
- 十四日 〇大正天皇祭
- 十五日 〇大正天皇祭
- 十六日 〇大正天皇祭
- 十七日 〇大正天皇祭
- 十八日 〇大正天皇祭
- 十九日 〇大正天皇祭
- 二十日 〇大正天皇祭
- 二十一日 〇大正天皇祭
- 二十二日 〇大正天皇祭
- 二十三日 〇大正天皇祭
- 二十四日 〇大正天皇祭
- 二十五日 〇大正天皇祭
- 二十六日 〇大正天皇祭
- 二十七日 〇大正天皇祭
- 二十八日 〇大正天皇祭
- 二十九日 〇大正天皇祭
- 三十日 〇大正天皇祭
- 三十一日 〇大正天皇祭

# 極寒敵中 一兵も千に當る



太平洋に於ける形勢を何とかして挽回しようとする海軍は、第一次ソロモン海戦以来幾度かの反攻を企てたが、北方においても、六月七日わがアリートン諸要地の攻取を以て、日本より受ける新たな脅威に、この北方の重大性を今更ながら認識して、これを奪還すべく、その有力部隊を出撃させるとともに、殆んど連日のやうに敵機または敵十機の重爆撃機からなる編隊をもつて死物狂ひの反撃に出でつゝあつた。

これに對しわが陸海軍部隊は、敵の陣中にも等しいこの地域において、寡兵ながら一兵よく千に當るの覚悟をもつて幾度かの敵襲を撃退し、六月十二日から十月三十一日までには交戦回八十一回、その間敵三十二機を撃墜する戦果をあげたのである。このやうに同方面守備の任にあるわ

が部隊は、南方ソロモン海戦における輝く大戦果に呼應して、敵反撃の鋒先を見事破砕しつゝあるが、わが方においても駆逐艦二隻を喪失、輸送船二隻を大破、自爆、未歸還の水上機十五機といふ重い犠牲を拂つたほか、軍事施設にも若干の被害を受けたのであつて、これをもつてみても同方面の戦況がいかに激烈であつたかは容易に知ることができよう。

やがて内地にも木枯吹き荒ぶ冬がくる。われらは北方四千キロ、生きてゐるだけさへ困難な零下数十度の酷寒のなか、言語に絶した戦ひを不斷に続け、敢然と北進の守りにつくこれら勇士たちの勞苦を偲ぶとともに、いよゝ生産力を増強して敵米英を叩き潰すまで闘争を続けかねばならない。

□ 北極の寒さは非に堪へない。海軍に委ねられた部隊が狂ふのが北方である。わが海軍の勇士は限りない勇氣を誇る

□ わが海軍に委ねられたアリートン諸要地の守備の戦況

撮影 陸海軍報道班員

□ 敵機の襲撃に寸分のゆりもなく對空砲火に弾幕する海軍の勇士



□ 敵機の襲撃に寸分のゆりもなく對空砲火に弾幕する海軍の勇士



# 最新ビルマの放送車

雨季のやうやく明けたビルマの街から村へ今日も放送車が異様な鬧雑をあらはすと、もう住民たちがわーつと集つて来る。去る五月ビルマ軍の作戦が終了すると、放送車は民衆宣傳の有力な動力として活潑な活動をはじめたが、とくに八月以来、ベ・モ長官の下、新生ビルマ建設を力強く踏み出したビルマ人に対して市場で、廣場で、校庭で、放送車のスピーカーは新生ビルマの意義をわかりやすく、力強く語り出した。

街や村へ入るとまづ傳單がまかれる。それには「みんなで新しいビルマ建設のために働きませう」と書いてある。情いレコード放送が始ると道班員は「皆さん、そのビラの意味がわかりですか？ それについて私がわかりやすくお話しませう、といった調子で大東亞戦争の意義や、共榮團の一環としてのビルマの使命、建設のために働くことの悦びなどをやさしくまかせてゐる。

← かつて東南トラマの走りつづけた道を街から村へ、新ビルマ建設を鼓む

← 「みんなそろつて新生ビルマのために働きませう」放送車はラングーン市内にびらをまいて走る



← 村の入口には放送スピーカーが貼られる。遠くからもう子供たちが飛んで来た

← 市場に入るとまづレコード放送が始まる。それに續いて隣にも解るやうにやさしく新生ビルマを語り出した



← 楽しいレコード放送が始ると「ベ・モ長官もいはいれたやうに働いてこそしつかり働いてビルマ人のビルマにしようではないか」と道班員の熱意がづく



撮影 前田陸軍報道班員

← 球數と傳單を手に農夫の妻はなる程なる程といよ／＼熱心にきき入る



貯蓄戦でも

米英打倒



長期貯蓄に

生命保険  
徴兵保険

国民貯蓄局

生命保険統制會

宣  
眞  
週  
報  
第  
一  
七  
七  
号  
一  
九  
四  
一  
年  
十  
一  
月  
十  
五  
日  
發  
行  
一  
冊  
一  
圓  
二  
角  
分  
郵  
政  
特  
許  
第  
一  
七  
七  
号  
一  
九  
四  
一  
年  
十  
一  
月  
十  
五  
日  
發  
行  
一  
冊  
一  
圓  
二  
角  
分

内閣印刷局印刷發行

〔内閣編纂〕A4規格定規はきり大の書\*